

第3回中間報告

(2015年2月26日～2015年5月26日)

国際ロータリー第2710地区
2014/15年度グローバル補助金奨学生
University of Birmingham
MSc Global Cooperation and Security
新口慎太郎

派遣ホストクラブ及びカウンセラー
三原ロータリークラブ
出田啓治様

受入ホストクラブ及びカウンセラー
The Rotary Club of Birmingham Breakfast
Ms. Chris Gregory

バーミンガムに来て9か月が経ちました。日本では梅雨の蒸し暑い季節が近づいていますが、イギリスはまだまだ初春のような毎日で朝晩は少し冷え込みます。ただ緯度は北海道より北にあるため日はとても長く、夜9時になってもまだ外は少し明るく、これから夏に向けてまだまだ日は長くなるそうです。

前回の第2回中間報告からイギリス国内では様々なことがありました。ウィリアム王子とキャサリン妃の間に第2子であるシャーロット王女が誕生するというおめでたい出来事や、日本の衆議院にあたる庶民院の総選挙で与党の保守党が圧勝するという政治的に大きな出来事もありました。これら2つの出来事は私にとっても非常に関心が高かったものでもあり、また日本と比較すると興味深い違いなどもありました。日本にも皇室というかたちで「ロイヤル・ファミリー」が存在しますが、イギリス王室は非常に開かれていることもあり、テレビや新聞などのメディア



春のキャンパスの風景

での取り上げられかたや国民の関心の持ち方も非常に異なりました。日本では皇位継承問題もあり、悠仁親王ご誕生の際にも性別が大きな関心ごとになっていましたが、イギリスでは女子にも王位継承権が認められているためか、性別以上に新王女の名前に非常に関心が集まっていました。日本では少し考え難いですが、BBCなどのイギリスメディアは街頭でインタビューなどを行って国民に新王女の名前を予想するアンケートをとっていたり、王室におけるこれまでの第1子と第2子は兄弟姉妹であってもどのように違う人生を歩んでいるかなどを紹介していたりしました。庶民院の総選挙の際は若い世代の政治への関心の高さに驚きました。私が政治系の学部にも所属しているということもありますが、まわりの友人はそれぞれ現在の政治に対する自分自身のしっかりとした意見を持っていて、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアを通して自分の考えを発信していたりしました。また政治家の選挙運動の仕方などにも日本との違いが見受けられるなど、非常に興味深かったです。私が渡英したばかりの昨年9月にはスコットランドの独立を問う国民投票もあり、この9か月間学業以外の面でも様々なイギリスの社会的動きを見ることができています。

学業面での成果

私は5月に全ての試験や課題を終え、大学院の課程において残されているのは修士論文のみとなりました。修士論文は「Transitional Justice and Peacebuilding in Divided Societies（分断された社会における移行期の正義と平和構築）」というテーマで研究・執筆しています。

Transitional Justice（移行期の正義）というのは紛争後の国家や独裁政権・軍事政権から民主的な平和国家に移行する際にそれ以前に起こった民族間や対立勢力間の犯罪をどのように扱うかという問題です。私はミャンマーのケースを扱う予定にしています。ミャンマーは現在民主化が進められており、日本をはじめとする多くの国が「アジア最後のフロンティア」としてビジネス

チャンス求めてたくさんの投資をしており、経済の発展も著しいです。しかしその一方で国内には多数派のビルマ族とその他の少数民族との武力衝突やイスラム系少数民族民族に対する弾圧・迫害など、深刻な問題を多く抱えています。特にイスラム系のロヒンギャ族に対する迫害の問題に関しては、ノーベル平和賞を受賞しミャンマーの民主化の象徴的人物でもあるアウン・サン・スー・チー氏も政治的理由から消極的な姿勢を見せるなど、長年問題になっているにも関わらず国内的にも国際的にも十分に対処されていません。私は他国における紛争後の移行期の正義がどのように行われてきたかを分析し、それら国際的な平和構築の経験をどのようにミャンマーの民主化の過程に当てはめればよいのかを提言するような形で修士論文を書きたいと思っています。

留学生活前半は授業とその課題で手いっぱいな生活を送っていましたが、後半に入ってから授業外にも研究活動の場を広げることができています。4月にはバーミンガム大学の **Institute for Conflict, Cooperation and Security** (紛争及び安全保障協力研究所) が主催した 1 週間にわたる紛争仲介訓練のプログラム「**Trust, Diplomacy and Conflict Transformation**」に参加し、無事に全過程を終えて修了証をいただきました。このプログラムは学外の研究者や学生も参加するトレーニングプログラムで、最先端の研究をしている教授陣や現役の外交官、また平和構築の現場で働く NGO などを招聘して、国際政治における新しい考えや研究について学び、紛争をいかに解決するか、またどのように対立国家・勢力の間に仲介役として入り、両者を和平合意に導くことができるかなどについて学びました。プログラムのタイトルに **Trust** (信頼) とあるように、外交における信頼醸成がこのプログラムにおける大きなテーマとなっており、国際政治においてどのように信頼を築くことができるかを政治学、心理学、神経学など様々な視点から捉えることができ、学術的に非常に新鮮で内容の濃い勉強をすることができました。プログラム最終日には紛争解決の模擬演習を行いました。本年度のプログラムではイスラエルとパレスチナの紛争を取り上げ、実際にヘブロンという地域で起こった両者の対立を模擬演習で再現しました。プログラムの参加者はイスラエル政府、イスラエル軍、ヘブロンにイスラエル系住民、パレスチナ政府、パレスチナ警察、パレスチナ系のテロ組織であるハマス、そしてイスラエルとパレスチナの交渉を仲介するノルウェー政府の 7 つのグループに振り分けられ、歴史的背景やこの地域や交渉における自分たちの立場、何を自分たちの利益として追及すべきか、交渉の中で決して譲歩できないことは何かなどをそれぞれ

のグループで分析し、交渉における戦略などを練りました。参加者それぞれが自分に振り分けられた役に入り込むことで、他の交渉などを行う際は本当の外交の舞台のように激しい論争になったり、それぞれ



Trust, Diplomacy and Conflict Transformation プログラムの参加者・講演者と

の意見が対立し一旦交渉を中断せざるを得なくなったりするなど、とても模擬とは思えないような演習となりました。

5月からはバーミンガムにある国際 NGO「Responding to Conflict」(RTC) でインターンシップを始めました。RTC は草の根での紛争解決を行っている NGO で、中東やアフリカ、アジアなどに実際に赴き、コミュニティレベルでの民族和解や紛争解決のプログラムを行っています。またイギリス政府や日本政府などの各国政府や国際機関などにも提言を行ったり、前述した私が ICCS で参加したような紛争解決のトレーニングプログラムの提供なども行っていたりします。私はリサーチ・アシスタントとしてインターンをしており、RTC が現在新規に行っておるインパクト・アセスメントというプロジェクトに携わっています。このプロジェクトでは RTC が過去 5 年間に行った紛争解決のプロジェクトやトレーニングコースがその後参加者や実施したコミュニティなどにどれだけ良い影響を与えられているのか追跡調査を行っています。私は主に過去のプロジェクト等への参加者に電話でインタビューを行い、彼らから集めた情報を分析し報告書にまとめています。過去のプロジェクトの参加者は世界中にいるため、時差や言語的な壁などの難しさなどもあります。また大地震が起きたネパールや紛争が終結していないシリアなども調査の対象にはいつているので、連絡そのものを取ることが難しい場合も多くあります。しかし、平和構築に携わる様々な方からそれぞれの地域でどのような問題を抱えていて、それに対してどのようなアプローチで解決したかなど、非常に興味深い話を聞かせていただくことができます。またたとえ小規模であっても、世界各地で草の根型の民族和解や紛争解決に RTC が確実に大きな貢献をしていることを知ることができ、自分もその一部に関わられていることにとってもやりがいを感じています。

受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

私が参加しているローターアクトクラブでは 2014/15 年度は小児がんで苦しむ子どもたちとその家族を支援する団体のために募金活動をしていました。年間を通してバザーなどの様々な活動を行い、150 ポンドを子どもたちががんの手術をするための資金として寄付をすることに決まりました。

また年度末ということでローターアクトクラブにおける役職の選挙を行いました。私はバーミンガムに残る可能性が少ないので役職には就きませんでしたが、会長や委員会などの役職に立候補したメンバーは次の 1 年間このようなプロジェクトや取り組みをしてみたい、ローターアクトクラブとして新たな可能性を探っていきたいなど、それぞれが自分たちに地域社会に対して何ができるか、何をすべきかということを実際に考えて既に自身の中で具体案などを練っており、非常に感心させられました。私はバーミンガムに来て自身が参加するまでは、ローターアクトクラブについてほとんど知りませんでしたが、今ではその活動や役割を非常に魅力的に感じています。ローターアクトクラブは地域社会のために何かしたいと思っている青年たちにとってプラットフォームのような存在になっており、個人では大きなインパクトは起こせなくても、クラブとして力を合わせることで地域コミュニティに対して大きな貢献をすることが出来ています。バーミンガムが国際的な都市であるため、クラブのメンバーもイギリス人だけではなく私のような留学生や他国出身の社会人のメンバーなどもあります。イギリス人以外のメンバーの多くは祖国でも

ローターアクトクラブに参加しており、行く先々の国でその街のクラブに参加しているそうです。ローターアクトクラブが開かれた組織であるという特色もこれを可能にしていると思います。私も数か月後にバーミンガムを離れた後も行く先々でクラブの活動に携わり、国境を越えてクラブ同士をつなげるようなことが出来ればと思います。

カウンセラーのクリスさんとは継続的に交流を続けさせていただいています。先日も私が「実はバーミンガム市内をまだあまり観光できていない」と話したところ、車に乗せて様々なところを案内してくださいました。

また昨年の地区大会でお会いしたジョンさん、エリザベスさんご夫妻が、私がまだイングリッシュ・アフタヌーンティーを経験したことがないというのを知り、ご自宅でのアフタヌーンティーに招待してくださいました。アフタヌーンティーには地区大会でお会いした他のロータリアンの方たちも来ておられ、地区大会以後の私の留学生活が順調かどうかとても気にかけてくださいました。私のバーミンガムでの生活や勉強している内容などを報告させていただくと、非常に興味深く聞いてくださりました。

ロータリアンの皆様は私が1年という短い留学生活の中で少しでも多くイギリスの文化を経験し、そしてより充実した毎日を送ることができるようにいつもサポートしてください、感謝の気持ちでいっぱいです。

直面した課題、問題点等

現在は修士論文、NGOでのインターンシップ、就職活動を並行して行っており非常に時間の管理が難しいと感じています。5月には試験やレポート課題などもあったためより厳しい状況でした。多くの国の企業や団体はポストが空き次第順次採用を行うのに対し、日本の企業や団体などは一斉に祭用を開始し一斉に締め切ってしまうため新卒採用のタイミングを逃さないという難しさもあります。また本年より就職活動の時期が大きく後ろ倒しになりました。政府は留学から帰ってきた学生が就職活動をしやすい環境作りを理由の一つに挙げていますが、結果として大学院留学をしている者にとっては修士論文の執筆時期と面接等の選考を行う時期が被ってしまっており、研究などのため留学先で執筆を行う学生は日本に帰国することが難しく、実際にはさらに厳しい環境になってしまったと感じています。

今後の目標、課題

今後の最大の目標はやはりより満足のいく修士論文を書き上げることです。前述致しました通りタイム・マネージメントは非常に難しいですが、これは今後社会に出るにあたって必要不可欠な能力でもあります。インターンシップは修士論文を書くにあたって平和構築の現場の様々な情報を得る機会にもなっています。またインターンシップと修士論文の執筆は将来自分は何をしたいのかということをより明確にしてくれています。卒業後の進路などで焦ってしまうこともありますが、今できることを確実にこなし、大学院での残り少ない時間は勉強面に限らず様々な面で見聞を広めるなど、時間を有効活用し帰国する際にはやり残したことの無いようにしたいと思います。